

平成 24 年度 第 5 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

初田 賢司 藤原 良一

Activity Report of SPM Research Committee

Kenji Hatsuda Ryoichi Fujihara

研究委員会では現在 10 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 24 年 10 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

【問い合わせ先】 spm-risk@yahooogroups.jp

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会 (主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD の考え方を応用して検討しています。今年度は QFD の考え方やソフトウェア設計のための技法の考え方をを用いて見積もり精度向上のための方法検討を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

- ・ 8 月 21 日(火) 研究会開催
ProMAC 発表予稿を差異確認し、提案手法と事例の作り込みを行った。
- ・ 9 月 20 日(木) 研究会開催
ProMAC 発表者による研究会内発表を行い、資料と内容の精査を行った。

<今後の予定>

- ・ 10 月 29 日(月) 研究会開催予定
ProMAC での発表結果、関連する発表のフィードバックを行い、今後の研究の方向性を議論する。
- ・ 11 月 26 日(月) 研究会開催予定
10 月に議論した研究の方向性に対して、文献調査の結果報告と内容の確認、議論を行う。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則毎月 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心として、メンバー各自の調査・研究について発表し議論を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

前は 5 月 12 日に開催しました。

<今後の予定>

次回例会は 12 月 15 日に開催予定です。詳細はお問い合わせください。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 (主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクトに焦点を当てて研究会を行っています。

2009 年春季大会にて発表した「電子政府調達計画にみる社会基盤情報システムプロジェクト成功への提言」を基にソーシャル PM の体系化、モデル化を行う等検討を深めてきました。また、研究会の活動概要を 2011 年の秋季大会で報告しました。

<活動実績と今後の予定>

2010 年より政府最適化プロジェクトの PM の方々の協力を得て、ソーシャル PM の視点で経験や教訓の整理を行い、研究会の成果としてとりまとめる予定です。

今後、社会インフラプロジェクトの事例研究として、東日本大震災の復旧復興プロジェクト等を新たな企画テーマとして研究を行うこと等、研究会の体制を検討中です。

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 西沢 和民 スピカ・ソリューションズ)

当研究会のメンバーが、PM の育成やプロジェクトマネジメントに関する様々なテーマについて、2010 年から学会誌に連載してきました。研究会の成果を発表する場としてより一層活用するために、全体のフレームワークを決め、来期 (2013 年 4 月) から PM 人材育成研究会連載「第 2 部」として掲載することを目指しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

8 月度例会は夏休みとして休会しました。9 月例会では連載記事「第 2 部」のフレームワークを作るためのディスカッションを行いました。

<今後の予定>

連載記事「第 2 部」のフレームワークを具体化

し、テーマと担当者を決める予定です。

【問い合わせ先】 pm-com@yahoogroups.jp

(5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

個人の目的や目標達成の術は色々存在しますが、PM の知恵を体系的に適用するものはあまりありません。そこを追究しているのが私達です。動機をもち、確実に良い結果を出す。そして関係者にも良い影響を与えるような理想的な個人 PM の確立を目指しています。毎月ほぼ一度の会合では活発な討議があり、文献にまとめる挑戦、ペースメーカーとなる個人 EVM の追究、リーダー育成との関連づけなど、取組みは賑やかで自由闊達です。昨年出た書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」は版を重ねました。さらに新しい発想でロードマップを更新しながら、高いゴールを目指す活動を今後も楽しく続けていきます。

＜過去 2 ヶ月の活動実績＞

8 月 4 日第 44 回会合（於 PM ラボラトリー）情報配布，発表 3 件，個人 PM テキスト開発検討

9 月 14 日第 45 回会合（於 筑波大学東京）報告 2 件，発表 3 件，連載記事分担，その他

＜今後の予定＞

10 月 15 日第 46 回会合（於 筑波大学東京）報告，自由発表，情報交換

11 月 26 日第 47 回会合（於 筑波大学東京）同

【問い合わせ先】 spm.ppmken@gmail.com

(6) 歴史に学ぶ PM 研究会

(主査：桑原 秀仁 トヨタファイナンス)

歴史上の出来事や人物についてプロジェクトマネジメントの視点から焦点を当てることで見えてくるものがあるのではないかと、ということで当研究会に集っています。歴史に学ぶプロジェクトマネジメント研究会では、メールを活用したコミュニケーションを図っています。各メンバーが自分の取組みテーマをマイペースで調査/研究しています。

＜過去 2 ヶ月の活動実績及び今後の予定＞

・研究会メンバーからの活動報告（研究中の「歴史に見るプロジェクトオーナー考」より）

歴史上の出来事をプロジェクトと見立てた時、その成否にプロジェクトオーナーの存在があることは見逃せない。天地明察の改暦プロジェクト（PM 渋川春海）には保科正之や水戸光圀が圧倒的オーナーシップを発揮した。宝暦治水 PT では、PM 平田鞆負（ひらたゆきえ）のオーナーは薩摩藩

主（島津重年）と江戸幕府。W オーナー制の GAP の中で、プロジェクトは苦汁をなめた。桶狭間の戦いでは、織田信長はオーナー兼 PM としてリーダーシップを振るい、常識を超えた発想で今川義元を打ち取った。築城プロジェクトの名 PM 藤堂高虎は、戦国にあって次々オーナーを変えたが最後は家康という名オーナーに出会い自らの能力を活かした。また映画「7人の侍」では、農民である村人がオーナーとなったが、プロの侍集団をリソース調達し平和という目標を達成した。いつの世でもプロジェクトオーナーシップは極めて大事であり、プロジェクトのみならず時に PM や PT メンバーの命運を左右する。

(7) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

＜過去 2 ヶ月の活動実績＞

・8 月 20 日（月）第 36 回特別会合開催

「プロジェクトマネジメント学会メンタルヘルスマネジメント研究会 SPM_MH Workshop 2012 in SEOUL」（8 月 31 日開催）に向けた最終準備状況と課題の確認，その対策を実施。まさに国際プロジェクトマネジメントの実践です。

・8 月 31 日（金）「プロジェクトマネジメント学会メンタルヘルスマネジメント研究会 SPM_MH Workshop 2012 in SEOUL」を開催



（ソウル大学環境総合研究所 SPM_MH Workshop 2012 in SEOUL 会場案内）

韓国、日本両国の関係各位の多大なご協力により、ソウル大学にて本ワークショップを無事開催することが出来ました。日韓から2テーマずつの講演と全体でのワールドカフェを実施。詳細な内容は別途ご報告いたします。

・9月19日（水）第37回定例会合開催

先の韓国でのワークショップの成果を、今後の研究会活動へどう活かすか議論。加えてニュースレター、出版、論文等での公表方法を議論した。

<今後の予定>

・10月17日（水）第38回定例会合開催予定

・11月21日（水）第39回定例会合開催予定

【問い合わせ先】pmmh_all@googlegroups.com

(8) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 日本アイ・ビー・エム）

2012年4月より新しい研究会として発足しました。

プロジェクトの規模、工数、コスト、工期、品質、リスクなどの測定量を正しく分析するため、データ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画へ活用していくことを研究していきます。

<過去2ヶ月の活動実績>

まずは統計の基礎から体系立てた知識を確立していくために勉強会をスタートしました。現在は統計の理論についての学習およびEXCELを使った統計手法についての学習、また実務での活用についてディスカッションしています。

9月11日、10月9日 研究会開催。

<今後の予定>

本年度は、統計の学習を中心に活動を行います。

会合は1回/月を目安に開催していきます。テレコン参加も可能です。

ご興味ある方の参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】kajiyama@jp.ibm.com

(9) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

（主査：久保 裕史 千葉工業大学）

ものづくりのための研究開発プロジェクトマネジメントの問題点抽出・分析と、その結果に基づく使いやすいPMの研究活動に、16名の産学協同検討チームが取り組んでいます。

<過去2ヶ月の活動実績>

第2回会合（8月24日）で、本研究会が取り組む領域を「ものづくり」と「研究・開発」に決めました。当日、メンバー企業によるR&D PMの活用事例と問題意識のプレゼンを実施し、今後の活動

内容についての議論を掘り下げました。現在、先行研究の調査を継続中です。

<今後の予定>

有用かつ共通性が高いテーマに絞り込む方針の下、次回会合（10月25日）でテーマを具体化します。

(10) フロネシス（知恵ある実践）PM 研究会

（主査：本間 利久 北海道大学）

2012年10月より新しい研究会として発足しました。

研究会名称のフロネシスは、アリストテレスによる知恵のあり方の一つで、実践知（practical wisdom）と訳され、倫理や情動、人間の行為、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト（PMBOK ガイド）を取り巻いている世界（①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制）を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践（フロネシス）につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系は、日本企業でのプロジェクトマネジメントのフロネシスとなり、日本の企業が世界で戦えるプロジェクトまたはプログラムマネジメントで求められているものに他なりません。

<今後の予定>

年内に会合を開催し、メンバーの募集方法、会合の年間スケジュールおよび具体的な活動内容等を検討する予定です。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 初田 賢司

kenji.hatsuda.fn@hitachi.com

研究委員会委員 米玉利 紀一郎

kiichiro.yonetamari.ar@hitachi.com

研究委員会委員 小川 純平

jumpei.ogawa.ap@hitachi.com